

●提案内容

- ・日本学術会議講堂で開催されたシンポジウム（2016年1月20日）と同様に、幕張メッセを会場として開催される分析展でのシンポジウム（2017年9月6日）も、学振研究開発専門委員会「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォーム戦略の構築」との共同主催とさせて頂きたい。

※ 他の（共同）主催機関は？

- ・開催時間を14時から17時半（210分）と想定した上で、研究開発専門委員会側の発表に関しては、次の案で考えさせて頂きたい。（80分）

①全体概要（20分）

「日本学術振興会研究開発専門委員会：イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォーム戦略の構築」の活動概要と今後の展開

一村信吾：名古屋大学教授/イノベーション戦略室長

（学振研究開発専門委員会 委員長）

②活動報告1（15分）

「ソフトウェアプラットフォームの構築に向けて」

安永卓生：九州工業大学教授

（学振研究開発専門委員会 共通基盤（ソフトウェア）WG 主査）

③活動報告2（15分）

「ハードウェアプラットフォームの構築に向けて」

藤田大介：物質材料研究機構 先端的共通技術部門・部門長

（学振研究開発専門委員会 共通基盤（ハードウェア）WG 主査）

④活動報告3（15分）

「ソリューションプラットフォームの構築に向けて」

柳内克昭：TDK テクニカルセンター 製品解析ソリューション Unit リーダー

（学振研究開発専門委員会 ソリューション WG 主査）

⑤活動報告4（15分）

「標準化の視点で考えるプラットフォーム構築」

藤本俊幸：産業技術総合研究所 物質計測標準研究部門長

（学振研究開発専門委員会 標準化 WG 主査）

- ・上記はあくまでも現時点での案であり、分析化学分科会でのご意見を踏まえて修正は可能。

- ・研究開発専門委員会側は、シンポジウムを臨時の委員会と位置づけ、委員の出席を呼びかける。その他関係者へのアナウンスにも務める。

参考： 鈴木先生との事前打合せ（2017年3月6日）の際のプログラム案/時間割の概要は下記の通り

- ◇ 主催者・来賓挨拶（10分）
- ◇ 基調講演4件（30分 x 4件）
- ◇ 研究開発専門委員会活動報告（80分）